

【静岡福祉文化を考える会】2024年度事業報告

活動テーマ：「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」

1. 静岡福祉文化を考える会の活動の原点及び活動基調と29年間の歩み

「静岡発 福祉文化の創造」を県域に発信して、本会はここに29年目の福祉文化実践活動をまとめることができた。

29年の福祉文化実践活動をまとめるあたり、常に、本会の活動の原点をしっかりと確認しなければならない。

「日本福祉文化学会」から、静岡県内で「第11回福祉文化現場セミナー」開催の要請を受け、阪神淡路大震災発生1年後（1996年3月）、「静岡発・みんなで語ろう福祉文化を21世紀の礎に」を掲げて、「人間らしい豊かさをめざして、いま文化としての福祉を語る」をテーマに、全国各地から400名余の参加者と熱く語り合った思いを単に、イベントで終わらせない形にしようと、「災害と福祉文化」を追求する「静岡発（地方発）福祉文化の創造」に取り組む「市民活動団体」として1996年9月に結成した。

そして、市民活動団体として、事務局を静岡市内に開所するとともに、静岡市ボランティア連絡協議会に加盟をした。

「静岡発（地方発）福祉文化の創造」を理念として、「専門性と市民性の融合」、「公開型地域総合型学習による理論と実践」、「課題解決に向けた、福祉文化のプロセス重視」の「3つの活動基調」を掲げて、活動に取り組んできた。

さらに、次の「3つの柱立て」を基に、具体的な福祉文化実践活動に取り組んだ。

* 第1の柱立て：「啓発学習事業」「地域総合型啓発学習」として県内各地の実践活動に学ぶ

* 第2の柱立て：「調査研究事業」県民の協力により、一貫して、その時代の地域社会問題をテーマに調査研究活動に取り組み、その結果をその都度県民とともに「地域総合型学習」により課題解決に向けた議論を深める

* 第3の柱立て：「現場実践活動事業」広く県内各地の実践事例を共有し合い、「地域診断」をもとに、確かな地域性を把握し、さまざまな実践活動を展開し、「協働」による福祉問題解決のプロセスの重要性を確認する

「静岡発（地方発）福祉文化の創造」をもとに、更に、この29年間の福祉文化実践活動を考察すると、次のような区切りをすることが出来た。

■『草創期』（1996年度～2001年度の6年間）

* 結成直後の活動は、模索しながらも、若者中心の会員構成であったので、地域社会の課題をもとに「結婚」、「共働き」、「地域」、「家族」、「父親」、「ボランティア活動」等を議論し合った。

■『協働期』（2002年度～2007年度の6年間）

* 日本福祉文化学会から、静岡県において「学会全国大会」の開催を強く要請され、会員以外に県内外有志42名で実行委員会を立ち上げた。平成13年11月29日「学会全国大会静岡大会プレ大会」（参加者約300名）、翌平成14年11月30日・12月1日に、「富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに「第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会」（裾野市会場、全国から延べ約650名が参集）開催を実現した。

この期は、更に、県内外の関係団体等との関係づくりに努めながら、「働く人の暮らし」、「生活圏域の検証」、「子どもを育む地域環境」、「団塊の世代」等を議論し合った。

■『実践融合期』（2008年度～2014年度の7年間）

* 静岡県委託事業「一人でも安心して暮し合う地域づくり事業」（高齢者等孤立死・孤独死防止モデル事業）をもとに、高齢者等が地域で孤立することなく、安心して暮らし合えるための検証活動に取り組んだ。

■『共創社会実現期』(2015年度～2019年度の5年間)

*「生活圏域の地域づくり」、「ご近所の助け合い」、「地域ぐるみの居場所」、「子どもを育む地域」、「地域ぐるみの支え合いの仕組み」等の検証に取り組んだ。

■『ご近所福祉検証期』(2020年度～2023年度)

*これまでのプロセスから、2020年度は「つながるご近所の再構築—ご近所福祉の復活—」を活動テーマに掲げ、その翌年度（2021年度）は、「地域を家庭化する支え合いの検証」そして、2022年度「ホッとする豊かな地域づくりを拓く一共生社会実現を探るー」、2023年度「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”」に、それぞれ取り組んできた。

●静岡福祉文化を考える会2024年度の活動の方向性

今年度（2024年度）は、「2024年度 赤い羽根助成事業」の交付決定をいただき、2013年度（平成25年度）から、地域福祉教育教材の開発に取り組み、2015年度（平成27年度）「若者発 ご近所福祉かるた」の誕生につなげたプロセスを基に、「活動テーマ：「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」を掲げ、引き続き、「ご近所福祉検証期」として、「ご近所の支えあい」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する活動とともに、更に「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用の働きかけと、これまでの「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況を調査し、2021年度（令和3年度）作成した「かるた利用の手引き」に続き、今年度、新たに「活用事例集」の編集・発行を、協働関係の「焼津福祉文化共創研究会」とともに「“ご近所福祉”こそ福祉文化」を検証することが出来た。

2. 活動実施期間 2024年4月1日～2025年3月31日

3. 活動範囲 静岡県全域

(特には、静岡市内及び協働団体：焼津福祉文化共創研究会活動領域の焼津市内)

4. 各種会議・研修・会議等実績

No.	活動内容	回数（開催日）	参加実数
1	静岡福祉文化を考える会委員会	5/25 11/30 2/22 3/29 4回	32名
2	共創社会実現研究会	4/13 5/11 5/25 6/8 7/17 9/7 11/9 12/14 8回	64名
3	公開型研修会	5/25 2/22 2回	40名
4	福祉文化研究セミナー	11/30 1回	30名
5	協働団体焼津福祉文化共創研究会定例会	4月～2月（毎月第2土曜日開催） 11回	55名
6	静岡市民生委員児童委員研修会	8/29 1回	30名
7	三島市民生委員児童委員研修会	4/9 1回	50名
8	静岡県コミュニティカレッジ	9/21 1回	30名
9	かるた活用事例集編集協議	8/8 8/13 9/27 3回	6名
10	県身体障害者福祉会中部ブロック研修会	10/18 1回	60名
11	「かるた」活用状況調査実施（5月～6月実施）	24カ所回答からのかるた利用数 24回	459名
12	かるた及びかるた活用事例集配布提供	 52回	200名
13	県内啓発（研修・会議等）	焼津市V連80、静岡市V連30、沼津市40⑤ 菊川市100④、コミ推携60⑤、西伊豆30、島田市20 18回	360名
合計			127回 1,416名

5. 具体的な取り組み（内容）

(1) 2024年度全体会（全体会&第1回公開型研修会）の開催

- 日時: 2024年05月25日（土）13:30～15:30
- 会場: 静岡市清水区追分3-5-17「寄ってつ亭」
- 内容: 研修テーマ; 「“ご近所福祉”これまでとこれからを語る」
 - (1) 基調報告: 「これまでの意識と実態調査」から、ご近所を検証する
 - (2) ワークショップ: 「若者発 ご近所福祉かるた」で、私の地域を検証

(2) 委員会の開催

- * 実務型委員会構成を基に、[代表], [副代表・事務局長], [会計], [監事], [委員]が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努めた。
- * 原則、「公開型研修会」開催の前段に開催した。
- * 広く会員や一般社会人にも参加を掛け、「公開型学習会」として位置付けた。
- * 2024年度の委員会開催は、以下の通り、4回開催した。
 - 第1(221)回: 2024年05月25日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
 - 第2(222)回: 2023年11月30日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
 - 第3(223)回: 2024年02月22日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
 - 第4(224)回: 2024年03月29日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってつ亭」

(3) 研修活動

① 公開型研修会の開催

会員相互の情報交換の場及び日常的な実践活動につなげるとともに、広く、市民に公開型研修会として参加を呼びかけた。但し、第1回は、会員全体会を含めて開催した。

■ 第1回

- 日時: 2024年05月25日（土）13:30～15:30
- 会場: 静岡市清水区追分3-5-17「寄ってつ亭」
- 内容: 研修テーマ; 「“ご近所福祉”これまでとこれからを語る」
 - (1) 基調報告: 「これまでの意識と実態調査」から、ご近所を検証する
 - (2) ワークショップ: 「若者発 ご近所福祉かるた」で、私の地域を検証

■ 第2回

- 日時: 2025年02月22日（土）13:30～15:30
- 会場: 静岡市清水区追分3-5-17「寄ってつ亭」
- 内容: 研修テーマ; 「“ご近所福祉”の見える化・わかる化を検証する」
 - (1) 基調報告「ご近所福祉検証期の5年間を振り返る」
 - (2) 円卓トーク「私のご近所のこれからを描く」

② 「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」の開催

- 日時: 2024年11月30日（土）13:30～15:30
- 会場: 静岡市清水区追分3-5-17「寄ってつ亭」
- 内容: 研修テーマ; 「福祉文化の学び23年間の歩みから見えたもの」
 - (1) 基調報告「“協働”による福祉文化の創造」
 - (2) 円卓トーク「中学生から大人社会への15の提言を受けて、
これからの地域づくりを描く」

(4) 調査研究活動

テーマ：『「若者発 ご近所福祉かるた」活用と“ご近所福祉”検証調査』の実施

①ねらい

「静岡福祉文化を考える会」は、この 28 年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組んできた。そして、調査分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めた。

これまでの調査研究活動を振り返ると下記の通り。

- 1997 年度 1. 「共働きに関する調査」
- 1998 年度 2. 「私たちにとって、地域とは何かーその 1—意識と実態調査」
- 1999 年度 3. 「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 2000 年度 4. 「父親に関する調査」
- 2001 年度 5. 「ボランティア活動実践者意識調査」
- 2002 年度 6. 「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 2003 年度 7. 「青少年の生きがいに関する調査」
- 2004 年度 8. 「地域とは何かーその 2—意識と実態調査」
- 2005 年度 9. 「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)
- 2006 年度 10. 「子どもと社会環境に関する調査」(総括)
- 2007 年度 11. 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 2008 年度 12. 「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」(静岡県共同募金会助成事業)
- 2009 年度 13. 「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 2010 年度 14. 「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2011 年度 15. 「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとは何か本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 2012 年度 16. 「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2013 年度 17. 「家族ってなにその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2014 年度 18. 「長寿者とつながるホッとするご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2015 年度 19. 「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2016 年度 20. 「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 2017 年度 21. 「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 2018 年度 22. 「居場所ってなにその意識と実態調査」
- 2019 年度 23. 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(単純集計)
「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」
(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 2020 年度 24. 「256 名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか?」
(静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 2021 年度 25. 「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 2022 年度 26. 「福祉ってなに? 256 名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか」(さわやか福祉財団地域ささえあい基金助成事業及びあしたの日本を創る協会助成事業)
- 2023 年度 27. 「ホッとする、安心した地域づくりその意識と実態調査」
- 2023 年度 28. 「私にとって “ご近所” とは 中学生の意識と実態調査」
(静岡県社協ふれあい基金助成事業)

と、「28 のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

通算 29 回目となる今年度は、2024 年度の活動テーマ「見える・わかる “ご近所福祉” こそ福祉文化」に基づき、地域コミュニティへの住民の参加の希薄化傾向が伺える中、加えて、長

引く、コロナ禍下で、地域活動がこれまで十分出来ない状況から、ここにきて、少しずつ地域環境に明るい兆しが伺えるようになった。

こうした社会の動きの中で、本会の28年間の活動において、これまで、平成20年度から平成26年までの7年間、県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」を通じて、高齢者の孤立・孤独防止事業に取り組み、中でも、2年間、延べ24回、243名の若者が、長寿者訪問型研修会で、高齢者から、ご近所のふれあい・ささえあいこそ重要な解決策であることを学び、約400の意見が報告された。

2015年度（平成27年度）県共同募金・広域福祉活動助成事業により、若者からの尊い意見を精査するため、「共創社会実現研究会」を設置し、ご近所福祉の議論を重ね、「若者発 ご近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業」で、世代や領域を超えてご近所を学ぶ教材として、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生した。

幼児から大人まで、世代を超えて、身近な地域の実践活動の場や行事の中で、「地域総合型学習」として「見える化」「わかる化」の工夫をし、楽しみながら学び合い、安心して暮らし合う生活圏域づくりをめざすことができるよう、5年間地域福祉教育教材として、広く県民に活用を呼び掛けた。その後、「ご近所福祉その意識と実態調査」の調査結果から、改めて、高齢者（長寿者）の社会参加、集まる居場所の活性化、学校教育と社会教育の融合による課題等が浮き彫りになり、2021年度（令和3年度）、再び、静岡県共同募金会助成事業「若者発 ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育の開拓事業」により、「若者発 ご近所福祉かるたの増刷」（100セット）と、「かるた」の有効活用を目的に、「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」を作成した。

今日、児童福祉領域（学童保育）や、学校教育領域（特に、コミュニティスクール事業関連）をはじめ、世代間交流の領域、高齢者の教養研修の場、社会教育領域（地域講座）等、県内各地から、「かるた」提供の問い合わせがあり、約8年を経過した今年度、三度、赤い羽根共同募金助成事業により「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷（100セット 総計300セットになる）の運びとなった。更に、今年度は、「見える・わかるご近所福祉を学ぶ地域福祉教育教材」としての「かるた」を利用した、各種団体・グループ等から届いた「活用レポート」（活用報告）に、加えて、今年度改めて「活用状況調査」を実施し、回答いただいた尊い活用実績（報告）を考察して「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」として作成し、「かるた」の有効活用を働きかけるとともに、「ご近所福祉」をさらに推進することを目的に活動に取り組んだ。

②調査項目

- a 基本属性（地域・領域・設置年数・地域との関わり） b かるたの活用目的（ニーズ別） c 活用会場 d 参加者層（人数） e 活用展開（時間帯・所要時間） f 参加者の反応 g ご近所福祉への思い h 活用所見（課題） の 8 項目。

詳細は、「共創社会実現研究会（調査部会）」において具体的な協議をした。

③調査の展開

- a 調査実施期間（5月～6月） b 集計期間（7月），c 分析&考察（8月）
d 公表（8月）。

④対象 これまでに「かるた」を提供した地域、グループ、団体、施設等

⑤調査依頼／配布方法 郵送

⑥地域の現状を把握するとともに、円滑な調査研究活動に取り組めるように、協働団体の焼津福祉文化共創研究会とともに、「共創社会実現研究会（調査部会）」を設置し協議をした。

（5）「共創社会実現研究会」開催（全8回）

■設置目的

今日、地域コミュニティへの参画の希薄化とともに、家族機能やご近所のささえあいは、制度や施策等公助ありきの意図的支援が当たり前のような社会環境になりつつある。

加えて、長引く、厳しいコロナ禍下において、ますます、地域コミュニティのつながりやご近所のささえあいが弱くなっている。こうした制約された社会環境の中で、ようやく、地域社会

に明るい兆しが見えてきたこの時期に、地域社会の現状を把握とともに、計画に基づく「若者発 ご近所福祉かるた」による地域学習状況を把握し、「地域の支え合い」をまとめの調査の展開協議を深めるとともに、円滑な事業展開をする目的で設置した。

■構成

専門性と市民性を融合した住民主体を基本に、本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画による構成をもって運営した。

■協力 これまで、本会及び焼津福祉文化共創研究会から、「若者発 ご近所福祉かるた」を提供してきた関係領域及び地域実践者等

■設置期間と研究会開催日

(1)設置期間 本事業活動期間（令和6年4月1日より令和7年3月31日まで）

(2)開催時期

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	4月 13日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識① 調査実施協議(調査実施要項・調査個票) 調査配布計画
第2回	5月 11日(土)18:30 北川原公会堂	地域の現状認識② 調査票配布状況 調査票回答状況①
第3回	5月 25日(土)10:00 静岡市清水区	地域の現状認識③ 調査票回答状況②
第4回	6月 8日(土)18:30 北川原公会堂	調査票回収状況③ 調査票集計作業① 協働の課題
第5回	7月 13日(土)18:30 北川原公会堂	調査票集計作業② 調査票考察作業① 活用事例集編集①
第6回	9月 14日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集編集②
第7回	11月 9日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集発行及び配布先検討
第8回	12月 14日(土)18:30 北川原公会堂	事業総括

■運営 「静岡福祉文化を考える会」と協働団体「焼津福祉文化共創研究会」で実施した。

(6) 「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成

「若者発 ご近所福祉かるた」誕生（2015年度）から10年目を迎えて、県内の「ご近所のさえあい活動」（主に「かるた」配布先の活動）の実践地区への現地訪を通じて「地域総合型学習」として、幼児から大人まで、身近な地域における実践活動の場や行事の中で楽しみながら活用し、安心して暮し合う生活圏域づくりをめざす取り組みを検証した。

関係機関・団体との「協働」により、これまでに個人、地域実践者、施設・グループ・サロン等に配布・設置した「かるた」の活用状況を把握し、教育と福祉の融合を視点に「活用事例集」を作成し、更なる「ご近所福祉」を推進した。

■仕様及び印刷業者 A4版 表紙及び裏表紙 カラー印刷 本文 全頁カラー 計40P 印刷業者：「株式会社 セイコー社」

■作成過程

- ①事業起案時期 令和6年4月
- ②活用状況調査期間 令和6年5月
- ③「かるた」印刷期間 令和6年6月～7月 8月 納品
- ④事例集編集期間 令和6年7月～8月
- ⑤事例集印刷発注期間 令和6年8月末入稿 令和6年9月 納品
- ⑥公表 令和6年11月 及び 令和7年2月
- ⑦配布完了 令和7年2月
- ⑧配布先 「共創社会実現研究会」において協議の上配布した。

(7) 「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷

- *取り札 カラー4/4色印刷 絵札 カラー4/1色印刷 100セット
- *印刷業者は、すでに、製版型を有している「有限会社 シヅヤ印刷工芸社」
- *配布については、県内の東部、中部、西部を均等に配布検討（未配布市町社会福祉協議会を中心）サロン活動・学童保育、さわやかクラブ（老人クラブ）、コミュニティ組織（実践地区）学校教育、社会教育、福祉施設・包括支援センター、地域実践者等を検討するが、細部は、「共創社会実現研究会」において協議の上決定した。

(8) 広報・啓発活動

- ①「機関紙発行計画」に基づく『Our Life』の発行
 - * 年4回、A4版、4ページ構成、上質紙印刷、200部発行
 - * 「地方発福祉文化の創造」論議や実践活動を会員及び関係方面に具体駆に情報発信。
 - * 各号共通記事：「編集後記」、「ご近所福祉コーナー」、「事務局日誌拝見」
 - 第152号(04/05)『2024年度若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業決定』
 - 第153号(06/08)『若者発ご近所福祉かるた活用状況調査開始』
 - 第154号(08/05)『若者発ご近所福祉かるた活用状況調査まとまる』
 - 第155号(12/15)『若者発ご近所福祉かるた活用事例集完成』
 - 第156号(03/01)『2024年度赤い羽根助成事業が完了し、事業実施報告書提出』
- ②日本福祉文化学会HPと本会ブログのリンクによる「地方発 福祉文化の創造」の発信
- ③「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンクによる「福祉文化の創造」の発信
- ④マスコミ、関係機関・団体への定期的な情報提供

(9) コミュニティ組織との連携

コミュニティ組織との連携に努め、「かるた」の配布地域の開拓とともに「ご近所福祉」について、広く地域住民の意見を把握することに努めた。

(10) 関係機関・団体との協働・連携

- ①「静岡県共同募金会」に、助成事業経過報告
- ②「焼津福祉文化共創研究会」との連携（協働による諸活動の展開と、小地域福祉活動の連携による「近助」の取り組みの現場に学ぶ実践活動を県域に共有）
- ③「静岡県コミュニティづくり推進協議会」との連携（「かるた」配布団体・グループ推薦と事業関連情報提供）
- ④「日本福祉文化学会」及び「学会中部東海ブロック」への情報提供
- ⑤「教育と福祉の融合」をもとに、「学校教育」や「社会教育」分野への情報提供を開拓
- ⑥「静岡市ボランティア連絡協議会」との連絡調整及び情報提供
- ⑦「ふじのくに未来財団」への情報提供
- ⑧県内外の関連研究会等と「近助」に関する情報提供
- ⑨福祉コミュニティ組織における実践的取り組みをしている地域の把握との情報交換
- ⑩「若者発 ご近所福祉かるた」配布団体・グループ等への情報提供
- ⑪「静岡県社会福祉協議会及び市町社協」との連携（情報提供）
- ⑫公益財団法人「あしたの日本を創る協会」への情報提供
- ⑬公益財団法人「さわやか福祉財団」への情報提供
- ⑭公益財団法人「愛恵福祉支援財団」への情報提供